

関東グリコ株式会社

北本市中丸の民有地に2011年8月、大阪市に本社を置く江崎グリコの関連企業「関東グリコ株式会社北本ファクトリー」が完成した。約12万平方メートルという広大な敷地に、高さ31メートルの建物1棟だが、将来的には2期棟や3期棟の建設も計画されている。その完成した1棟の建物は商品を生産する工場部分約2万5,000平方メートルと厚生部分の約3,000平方メートル、そして今秋にもオープンする見学施設の約2,000平方メートルで構成、全体の延べ床面積は約3万平方メートルと広い。

建物完成後、生産ラインの設備が導入され、新年早々から試験稼働を実施して、本格稼働したのは4月からとまだ間もない。生産品はグリコの主力商品であるポッキーとプリッツの2種類だが、アイテム数は豊富だ。現在は1ラインで生産しているが、8月にはポッキーもプリッツも製造ラインが3ラインに拡張される予定で、設備の増強作業が進んでいる。それでも、工場内は60%程度の占有率で、さらに増設の余地を残す。出荷額は2013年3月までで140-150億円を見込み、2年度目以降には200億円弱になるという。24時間のフル



4月から稼働を始めた関東グリコ北本ファクトリー

稼働中で、パートを含めた約400人の従業員が平日3交代制で勤務している。

当社が北本の地に工場を新設することになったのは、江崎グリコグループの生産拠点戦略が変化したことによる。関東グリコの金子春義代表取締役社長によると、「大消費地に大規模工場を建設するという方針に転換したことから、首都圏内に適当な候補地を物色していた」と説明。千葉県や神奈川県なども含めて大規模工場が建設できる用地を探した結果、今から5～6年ほど前に北本の地に決定したという。

決め手となったのは、「物流面と労働力の確保だった」と話し、数多くある候補地の中から条件が一番適していたことによる。物流の面ではこれまで、北海道や北陸などの工場生産された商品を戸田市内の関東物流センターに輸送。しかし、北本の工場が稼働したことで、ポッキーやプリッツの生産が集約され、戸田の物流センターに輸送する時間が大幅に短縮された。

金子社長によると、「当工場が稼働する前は、トラックに商品を1箱ずつ積んでは戸田の物流センターで降ろしていたが、今はシー



敷地は約12万平方メートルと広大で、駐車スペースも十分に確保されている

トパレット輸送になり、積み下ろし時間が短縮したうえに、輸送距離も近くなったことで1日2往復は楽に可能になった」と話す。輸送の効率化を図ったことで、倉庫のスペースも軽減でき、しかも埼玉県は首都圏に立地しているため、全国に商品を配送することができるという。「これで圏央道が全線開通したら、文句ないですね」と金子社長。物流面の課題克服が決め手となったことは間違いない。

もう一つの労働力確保も「ものづくりをすることは人手が必ず必要。最近では単品ラインがないので、複数の商品ラインにはより多くの人の手を借りなければならない。その意味では、この北本は人集めに苦労しないで済む」と歓迎する。北本市を含めた周辺地域には潜在的に雇用ニーズがあったようで、当社の進出時には市民だけでなく、周辺自治体の住民からも注目されていた。そのため、パートを含む従業員募集には応募が多数寄せられ、人集めには苦労しなかったと明かす。今後もライン増設に伴う雇用対策には一抹の不安もないようで、労働市場に恵まれていることが進出の決め手になっている。

一方で、埼玉県では企業を誘致するために



建物のポール下は、シンボルのハートマークが植えこまれている



「北本に工場を建設して間違いはなかった」と話す金子春義代表取締役社長

各種の“インセンティブ”を用意しているが、金子社長は「補助金などの優遇措置は決め手の大きな材料にはならなかった」と言う。県企業立地課によると、「補助金制度は、企業が納付した不動産取得税の相当額に対して1億円を上限に補助するので、他県と比べて高額なものではない」と話し、全国の自治体に比べると必ずしも好条件とは言えない。それよりも進出用地が農業振興地域で、農地からの転用など土地利用の各種認可や地権者との調整に奔走したことが当社の進出を後押ししたようだ。

土地利用や地区計画などは、国との関係もあることから県が窓口とならないと難しい面もあり、特に60人前後に及ぶ地権者との折衝では、専従の職員を北本市に派遣して調整に当たった。企業立地課では「ワンストップ、オーダーメイドにクイックサービス」をスローガンにして企業誘致活動を展開。高額補助金の代わりに、要望を聞きながら一つの窓口で素早く対応することに徹していることが今回の誘致にも生きた」と話す。

金子社長も「県や北本市の協力には助かった」と評価。「企業単独でこれだけの工場用地を確保することは難しい面が多々あり、行



厚生棟の事務所スペース

政当局の助言を含めた御支援がなかったら進出は実現しなかっただろう。結果的に北本市に決めたことは良かったと思っている」と話す。実際、利害関係が絡む地権者との話し合いは、居住していた住民もいたことで、話をまとめることは難しい。「地権者との調整だけを考えると、単独で工場を建設することはだめだと判断する」と言うように、行政当局が間に入ったことで工場の建設が実現したということになる。

それでも地権者との間で合意に達するまでには、それ相応の時間がかかり、道のりは決して平坦ではなかった。大規模な工場立地だけに計画から決定、工事の着工、建物完成と長い時間を要したが、北本の工場はこれからも進化し続ける。当面は、今秋のオープンを予定している『グリコピア』が楽しみだ。神戸工場の『グリコピア神戸』と同じ見学施設で、江崎グリコの企業文化である『食べることと遊ぶことは子どもの二大天職である』という考えを具現化した見学施設。内部からポッキーやプリッツの製造工程が見られるほか、グリコの歴史やお菓子にまつわる話をシアターや体験ゾーンで楽しめる。

見学希望者は事前申し込みで受け付け、週

末や祝日も含めて、9人のスタッフガイドが対応する予定だ。金子社長は「キャパシティがグリコピア神戸よりも大きいので、年間8万人の来場者を目標にしている」と話し、「学校の社会科見学や観光客にも訪れてほしい」と呼び掛けている。

当社が北本の地に工場を立地した判断に間違いはなかったようで、「思った通りの結果が得られている」（金子社長）と満足し、県も「企業誘致の先鞭となった非常にインパクトのある進出」（企業立地課）だったと喜び、現在の誘致活動にも弾みが付いている。

工場概要

名称	関東グリコ株式会社 (通称：北本ファクトリー)
所在地	北本市中丸9丁目55番地
代表者	金子春義代表取締役社長
敷地面積	112,112平方メートル
建物面積	工場棟建設面積8,826平方メートル、延べ床面積30,997平方メートル
製造品目	ポッキー、プリッツ
従業員数	約400人(パート含む)
投資額	100億円
主な特徴	

- 1) 多品種少量生産に対応した機動的かつ効率的な生産体制＝最新鋭の機械設備や、これまでグリコグループで蓄積したノウハウを駆使した生産体制で、多様化する消費者ニーズに対応。
- 2) 環境にも配慮した工場設計＝省エネルギー型の空調システムや高効率照明の採用、太陽光発電システムの一部導入など、同規模の自社工場を従来の技術で建設した場合と比べ、二酸化炭素の排出量25%削減を見込んでいる。
- 3) 徹底した品質管理＝品質マネジメントシステムISO9000シリーズに準拠した独自のシステムで衛生管理、工程管理を実施。